

西原町地域新エネルギービジョン

(概要版)

平成21年2月

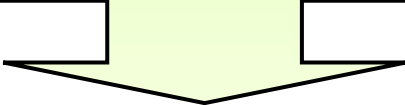
沖縄県 西原町

平成20年度版 地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業

※ 表紙は、小中学生用アンケート調査より、町内小中学生のみなさんからの新エネルギーに関するイラスト・絵をアレンジしました。

新エネルギーはどうして必要なの？

- わたしたちの生活は、多くのエネルギーの消費の上に成り立っています。日本は、エネルギー資源のほとんどを輸入に頼っており、将来も安定してエネルギーを確保できるようにエネルギーの自給率を上げることが求められています。
- 石油や石炭などの化石燃料を使ったエネルギーを大量に使用すると、二酸化炭素などの温室効果ガスが増えて地球の温度が上がり、海面上昇や台風の巨大化など地球環境にさまざまな悪影響を及ぼすのではないかとされています。



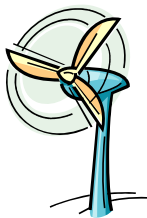
将来のエネルギー資源の問題や地球温暖化への対応として、新エネルギーへの期待が高くなっています。そこで、西原町では、地球環境にやさしい新エネルギーを積極的に導入するため、ビジョン（将来の構想）を立てました。

新エネルギーとは？

新エネルギーとは、自然の力を利用したり、今まで使われずに捨てていたエネルギーを有効利用するなど地球にやさしいエネルギーです。新エネルギーを西原町に導入することによって、化石燃料（石油や天然ガスなど）の消費が軽減され、それに伴う二酸化炭素の排出量を減らすといったことができます。

西原町で考えられる新エネルギーには以下のようなものがあります。

太陽光発電	太陽熱利用	風力発電	バイオディーゼル燃料 (BDF)	バイオマス由来発電・熱利用
太陽電池を使って、太陽の光エネルギーを直接電気に変えます。	太陽光の熱エネルギーを利用して、給湯や暖房等に利用するものです。	風の力で風車をまわし、その回転運動を利用して発電機で電気を起こします。	料理に使った食用油から燃料をつくり、軽油と同じように自動車に使います。	化石資源ではなく、植物や動物から得られるものからエネルギーをつくります。



※ 電気自動車などのクリーンエネルギー自動車については、新エネルギーには分類されませんが、通常のガソリンを使用する自動車に比べ化石燃料の消費や二酸化炭素の排出を減らす効果があるため、新エネルギーと同様に今後導入を拡大図るとされています。

西原町ですでに利用されている新エネルギー

太陽光発電(町立図書館)



館内に設置されている説明パネル。



事務室の照明電源として利用
(発電容量3.4kW)

太陽光発電(一般住宅)



住宅の屋根に設置されている
太陽光パネル

クリーンエネルギー自動車



役場の公用車 (1台)

バイオマス燃料



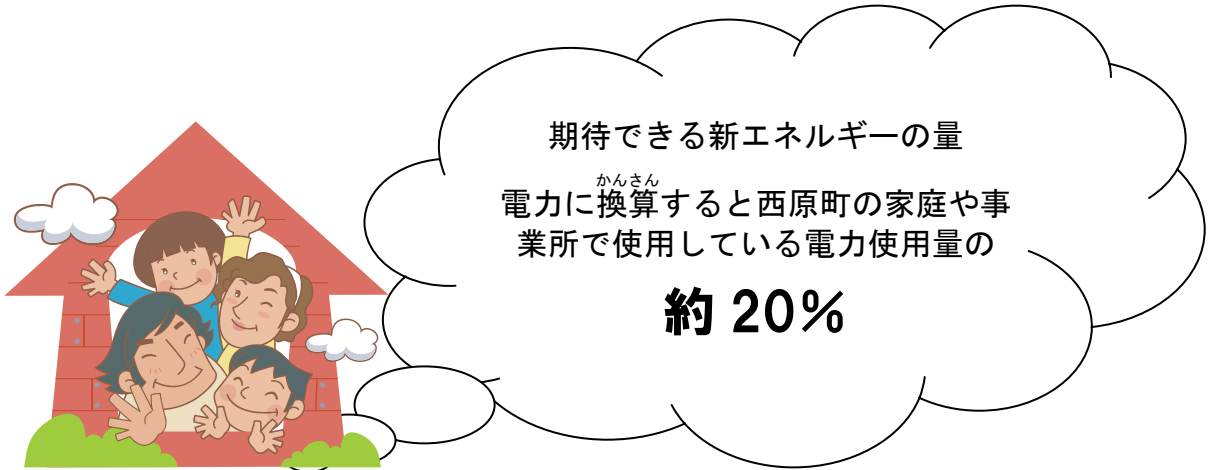
家庭から集められた廃食油

資源ごみの日に、各家庭から出された使用済みてんぷら油(廃食油)は、その後、町内の事業所に引き取られ、きちんと精製された後、自動車の燃料(バイオディーゼル燃料)として利用されています。

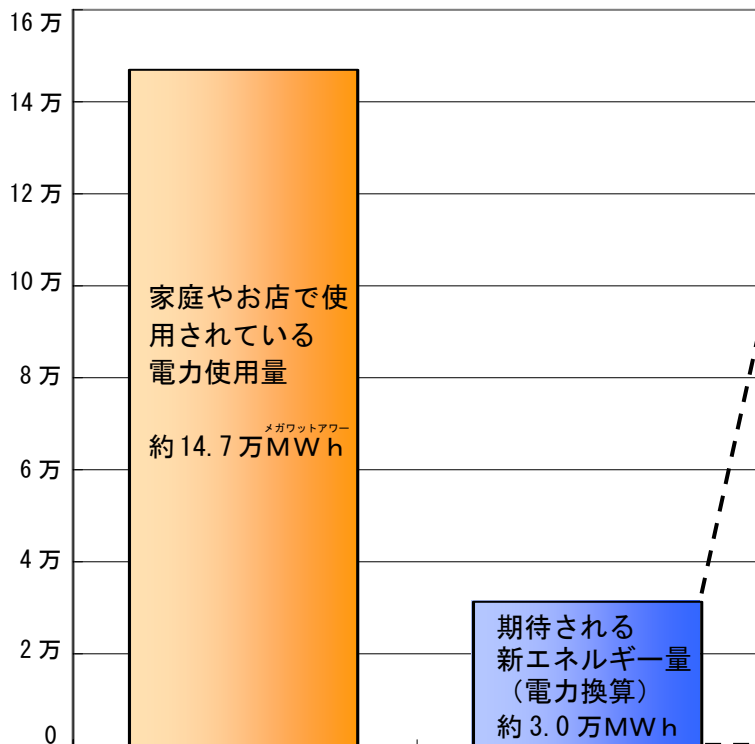
西原町で期待できる新エネルギーの量

西原町で期待できる新エネルギーの量を電力に換算すると、家庭や事業所で使用している電力使用量の約 20 % をまかなう量になります。

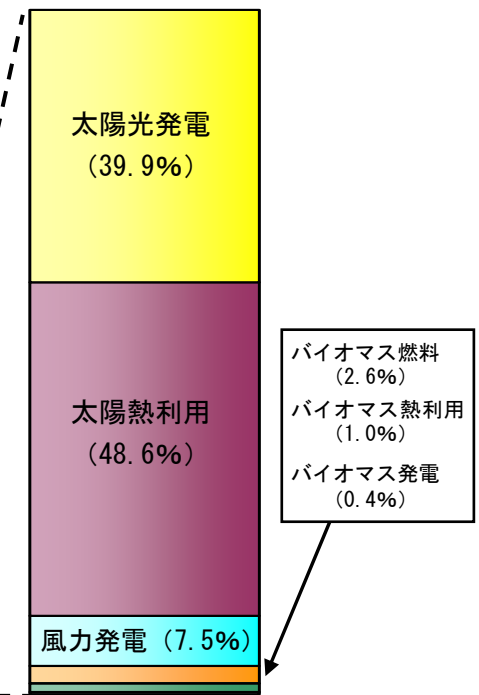
この新エネルギーを実際に活用した場合の効果は、原油に例えるとドラム缶約 2 万 2,000 本分の燃料節約効果があり、杉の木約 190 万本が 1 年間に吸収する二酸化炭素の量を削減する温暖化防止効果があります。



西原町で期待できる新エネルギーの量
(万メガワットアワー)



新エネルギーの内訳
原油換算 (約 4,400 k L)
ドラム缶 (約 2 万 2,000 本分)

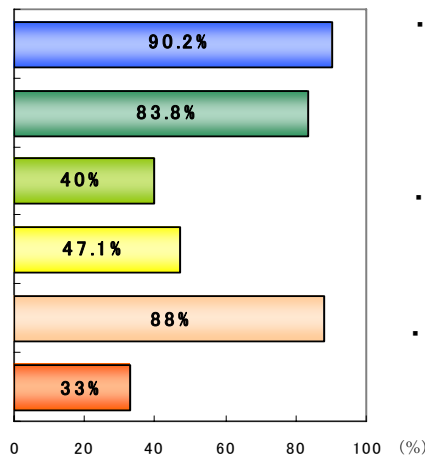


アンケート調査の結果

西原町で新エネルギーを導入していくことについて、町民、事業所、小中学生のみなさまにアンケート調査のご協力をいただきました。その結果を以下のようにまとめました。

家庭用アンケートより

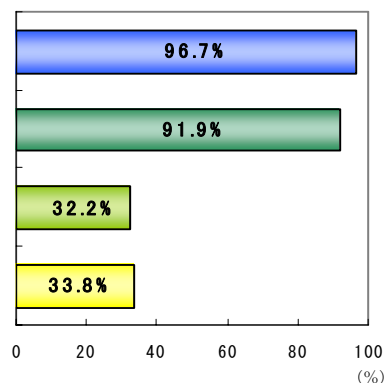
- ・世界的な環境問題に関心がある
- ・日頃から省エネに心がけている
- ・新エネルギーを知っている
- ・新エネ（太陽光発電）を導入したい
- ・クリーンエネルギー自動車を導入したい
- ・使用済み天ぷら油を資源ごみに出している。



- ・新エネルギーのことをもっと知ってもらうには、広報紙による宣伝活動が効果的であるという回答が多くありました。(58.2%)
- ・約7割の方が、導入のときに支払った金額の元が取れるなら導入したいという回答でした。
- ・導入を進めていくには、補助金制度の充実を望む回答が多くありました。(61.4%)

事業所アンケートより

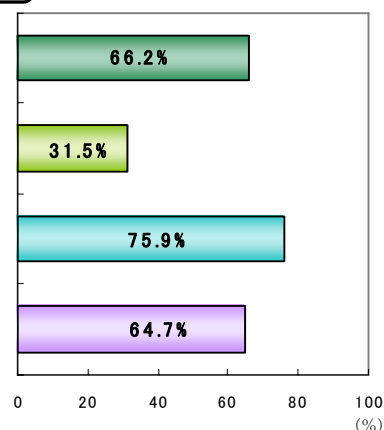
- ・世界的な環境問題に関心がある
- ・日頃から省エネに心がけている
- ・新エネルギーを知っている
- ・新エネ（太陽光発電）を導入したい



- ・エネルギー使用量が多いと感じている事業所は全体の8割を超えているが、減量に努めたいと考える事業所はそのうち5割弱でした。
- ・新エネルギーのことをもっと知ってもらうには、見学会や体験学習活動が効果的であるという回答が多くありました。(61.3%)
- ・導入を進めていくには、補助金制度の充実を望む回答が多くありました。(75.8%)

小中学生アンケートより

- ・日頃から省エネに心がけている
- ・新エネルギーを知っている
- ・学校の太陽光発電や風力発電を見学したい
- ・温室効果と温暖化の関係を知っている



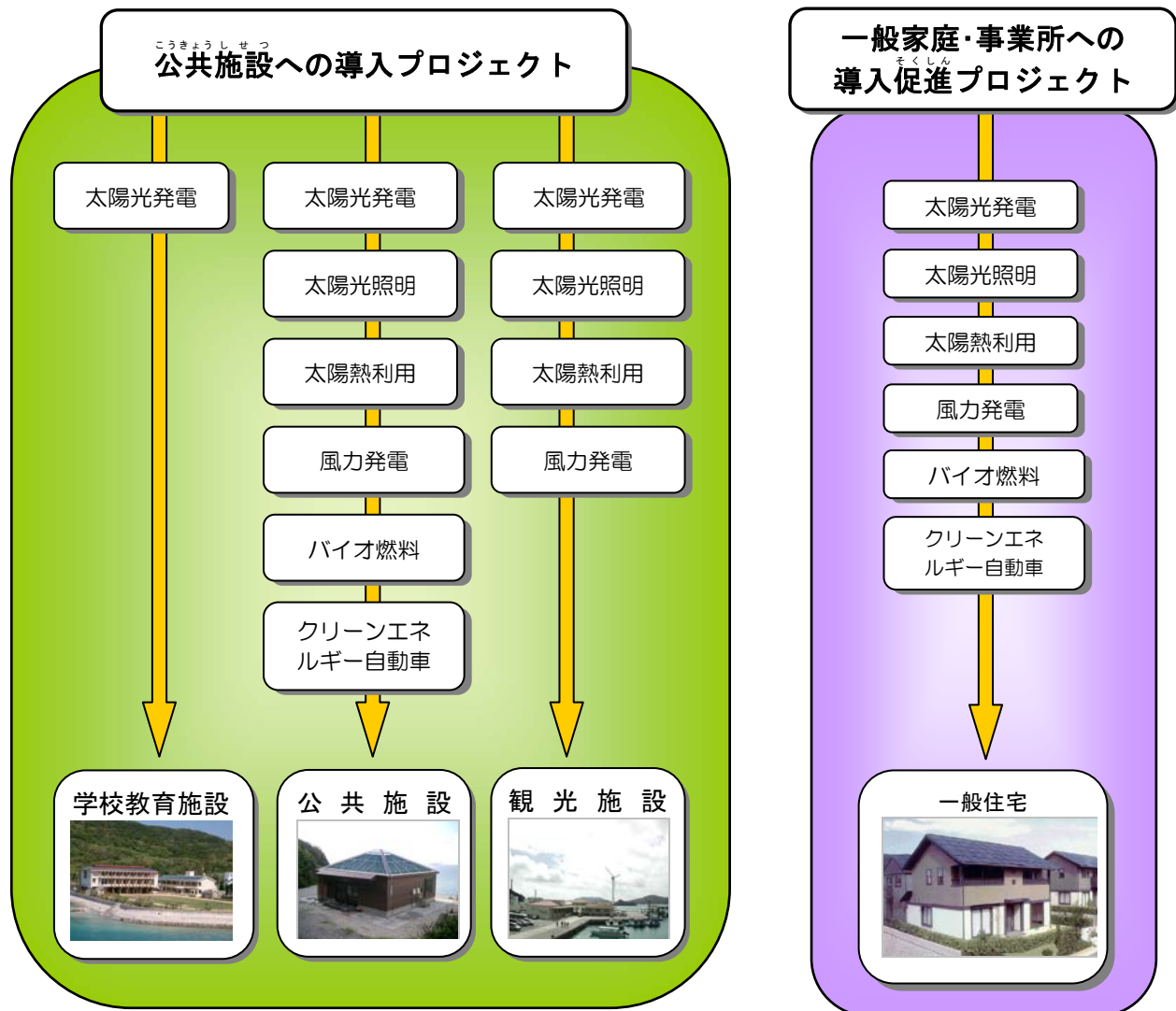
- ・心がけている省エネは、節電、節水、買い物はマイバックを使っている、が多くありました。
- ・見学したい新エネルギーの施設は、「手づくり発電所」(76.2%)が最も人気があり、「学校」(75.9%)、「クリーンエネルギー自動車」(73.7%)の順でした。
- ・自由意見では、自然豊かな西原町、ごみの少ない美しい西原町を望む意見が多くありました。

新エネルギー導入の基本方針

西原町では、これから新エネルギーを導入していくときに、次のようにしていきましよう方針を決めました。

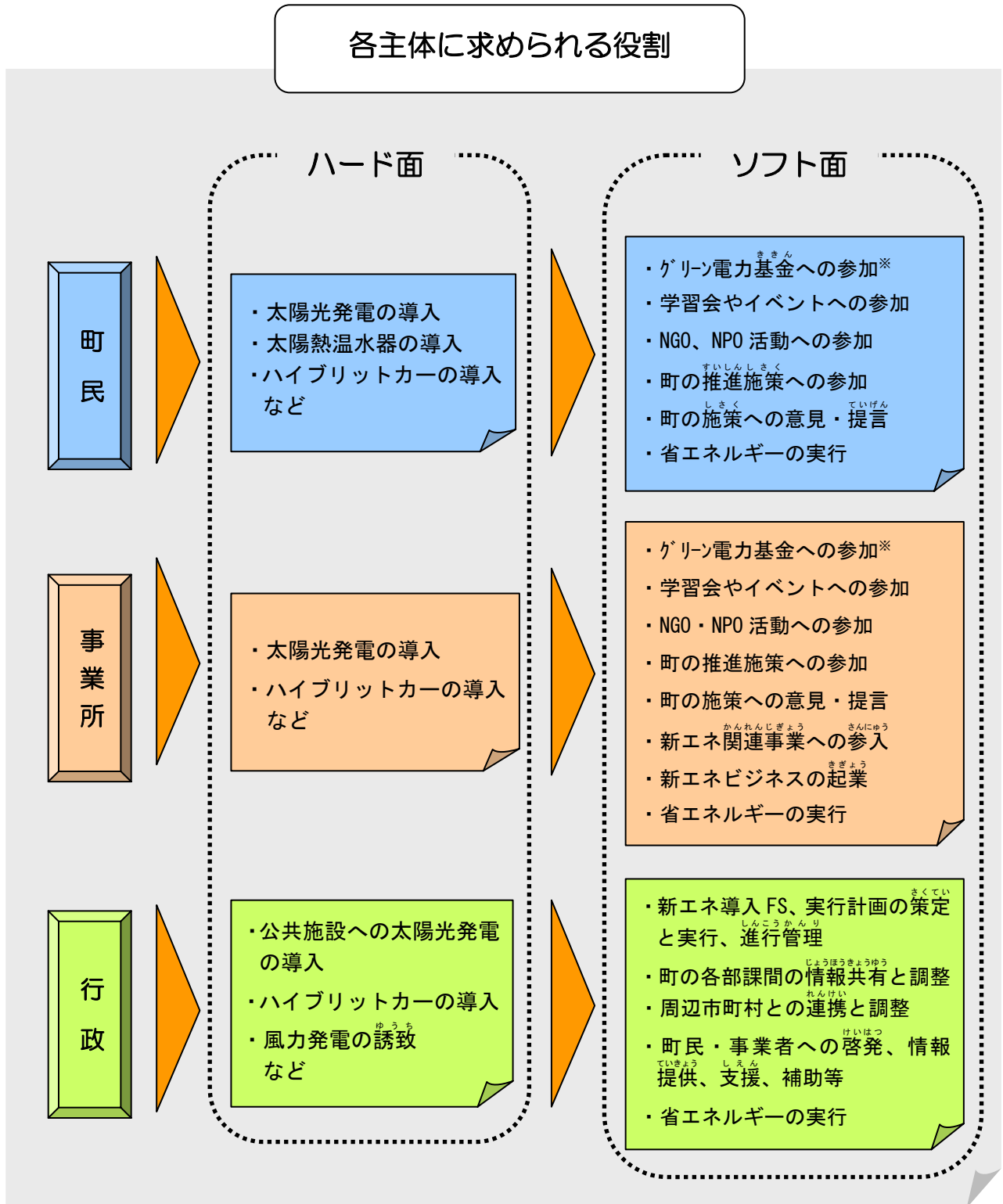
基本方針

- ① 公共施設へ、新エネルギーを積極的に導入する
- ② 学校などの教育施設に、新エネルギーを積極的に導入し、子どもたちの環境・エネルギー教育に役立てる
- ③ 一般住宅への新エネルギーの導入を広める
- ④ 事業所への新エネルギーの導入を広める
- ⑤ 観光施設への新エネルギーの導入を進める



それぞれの役割

地球環境にやさしい新エネルギーをひろめていくには、わたしたち町民・事業所・行政がそれぞれの役割を理解し、お互い協力して行動していくことが必要です。それぞれに求められる役割について、まとめました。



※ グリーン電力基金：環境にやさしい自然エネルギーの普及促進に賛同する顧客から寄付金を預かり、太陽光や風力発電設備開発を援助しようとする制度です。



問い合わせ先
 西原町企画政策課
 〒903-0220 西原町字嘉手苅 112 番地
 電話：098-945-4533
 FAX：098-946-6086

※ 本調査は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合
 開発機構の平成 20 年度「地域新エネルギー・省エネ
 ルギービジョン策定等事業」の補助により実施しました。